



【哀れみ深いものが幸いです。(5)】

今日の聖書本文：マタイの福音書5章1-10節 / 今週の暗唱聖句：ヤコブの手紙2章13節

説教：鄭南哲牧師

全国的に梅雨入りの時期を迎えようとしておりますが、先週一週間もみなさんはいかがお過ごしでしょうか。

アメリカのニューヨークには3つの空港(ジョン・F・ケネディ国際空港、リバティ国際空港(Newark)、ラガーディア空港(LaGuardia))があります。もちろんニューヨークのジョン・F・ケネディ国際空港が一番有名ですが、それ以外にもマンハッタンに約13kmで一番近いところに離れているラガーディア空港(LaGuardia)もあります。ラガーディアという名前は実は1933年-1945年まで12年間3回もニューヨークの市長としてアメリカ人に愛され、尊敬されてた生前すばらしい生き方のためこの飛行場に彼の名前がつけられたそうです。彼が市長になる前判事として在職する時の出来事です。ある日古い服を着ているある年寄りの方が法廷に逮捕され連れられてきました。

判事ラガーディアが“あなたはどんな罪でここに来られたのでしょうか。”と問うと、年寄りの方は“はい、私はニューヨークの町でパンを盗み食いした罪で捕まえられて来ました。本当にすみません！”

判事は続けて問います。“どうして盗み食いしたのですか。”

年寄りの方は“3日間も何も食べれずあまりにもお腹がすいていたので、自分も知らないうちに手を出してパンを盗んでしまいました。”

するとラガーディア判事は“あなたは他人のものを盗んだ罪を犯したので罰金10ドルを判決します。”と判決を下しました。すると年寄りの方は“判事様、私にはお金がありません。お赦してください。”と懇願します。その時、判事は自分のポケットから10ドルを出してあげながらこのように言ったそうです。

“私が彼の代わりに罰金を払わせて下さい。これほど飢えている兄弟がいるにもかかわらず、自分のお腹だけを満たしたのだから、自分の罪を告白しながらその代わりに罰金を払います。そしてこの場に集っている会衆のみなさんも私のような同じ罪を犯したと思う方がいるなら、私がこの帽子をまわしますので、そこに施しをしてください。”判事は集ったお金を年寄りの方に渡しながら言ったそうです。“帰ってふたたび罪を犯さないでここに来ないでください。”この名判決によって有名になったリオレロ ラガーディア(Fiorello La Guardia)判事はニューヨークの市長にまで選ばれ、今日まで尊敬されている政治人物になりました。もし彼が在職中飛行機の墜落の事故によって死ななかったなら、アメリカの大統領にまで上がったかも知れません。

この実話は哀れむ事とはなにかを私たちによく表わしてくれていると思います。

< 1. 神様は正義と同時に哀れみ深いお方です。 >

先週のメッセージだった“義に飢え渴いている者”についてともに恵みを分かち合いましたが、ひょっとすると神の義もしくは神の正義にあまりにも集中し、偏ってしまうと、その正しくない出来事だけではなく、その不義や罪のため苦しんでいる人々に対しても残酷な批判や裁きを私たちがしてしまいがちです。しかし、このような信仰の態度は決して正しく、神様が喜ばれることでもありません。実際にイエス様を信じている人々の中、特に正しく生きようとする人々の中では、罪の中で苦しんでいる者や、悩んでいる人々にむかって自分がまるで神様のように裁判官の立場になって人々を裁き、無視しようとする傾向があります。

たしかに神様の御言葉のとおり正義として守っていくべきですが、同時に不義を行ない、罪のため苦しんでいる人々を哀れむ心と行動が伴わなければなりません。なぜですか。私たちが信じている神様は不義を忌み嫌われる正義の方ですが、同時に哀れみの神様だからです。そしてその哀れみ深い神様は罪人として永遠に滅びるべき我々をも哀れんで下さったゆえに罪の代価として御子イエスキリストを十字架の上で死なせて下さいました。そしてそのイエスキリストを信じるすべての人々にどんな罪であっても哀れみのゆえにすべての罪を赦して下さいましたからです。

イエス様も哀れみと正義をいつもともにもっておられました。代表的出来事が新約のヨハネの福音書 8 章に書かれています。姦淫を犯して現場でつかまえられた女に対してパリサイ人たち含めほかの群衆は旧約の律法の定義に従って石打ちして罪を犯した女を殺そうとしましたが、イエス様は彼女を哀れんで下さいました。そしてイエス様は群衆にむかって“あなたがたのうちで罪のない者が、最初に彼女に石を投げなさい！”と言われながら実はみんなが神の前では同じ罪人であり、神の哀れみと赦しがなければだれでも生きる資格ができないがことを訴え、彼女を守りました。これがまさにイエス様の哀れみです。しかしイエス様はここで止まらなかったです。哀れみを施した女にむかって“行きなさい。今からは決して罪を犯してはなりません。！”とこれから神の哀れみと赦しを受けた彼女に神の正義と御言葉を守り、従って生きるように命じました。

神様は“義(正義、公義)”なる属性と品性を持っておられる同時に“哀れみ”も持っておられるお方であることを決して忘れてはいけません。ただ哀れみはなく正義の神様だけ考えて見て下さい。その神様はどれほど怖くて、厳しい神様でしょうか。反面、ただ正義はなく、いつも哀れみ深く神様だけなら、どれほど不公平になり、この世はさらに怖いところになってしまうでしょう。

エペソ人への手紙 2 章 4 節を見ると、神様を“あわれみ豊かな神は、私たちが愛して下さったその大きな愛のゆえに、”だと書かれているように聖書では繰り返し続けて“神は私たちが哀れんで下さるお方で”であることを強調されています。ですから、その哀れみ豊かな神様を信じ、その神様の哀れみと赦しを頂いたクリスチャンであるならば、私たちもその神様に似た哀れむ品性と人格を持った者にならなければなりません。

コロサイ人への手紙 3 章 12 節で使徒パウロはこう語りました。

“それゆえ神に選ばれた者、聖なる、愛されている者として、あなたがた深い同情心、慈愛、謙遜、柔和、寛容を身に着けなさい。”

今日私たちが神に選ばれ、愛され、自分の罪が赦されている者であるならば、何よりも一番先に私たちはこれからは哀れみつまり、深い同情心の服を着けなければならないと強調されています。

哀れみは自分の罪のため自分が当然受けるべき悲惨な状態に落ちている自分を神様がかえって深く同情し、哀れんで下さって自分が今主にあって赦されている者であることをいつも忘れてはいけません。

＜ 2. 哀れむとの意味 ＞

今日イエス様は山上でお話しされた 5 番目の祝福として哀れみ深い者は幸いになれることを教えて下さいました。

ここで私たちはこのような質問を投げられるでしょう。

いったい“哀れみ”は何でしょうか。イエス様が言われたこの“哀れむ”ことって何なのかもっと具体的に調べて見ましょう。ギリシャ語原語聖書では“哀れむ”を“エレイモン(eleimon)”という単語で書かれています。その意味は‘同情心深い、慈悲深い、情け深い’という意味です。

ある聖書学者はこ哀れみという単語をこのように定義しました。

“哀れみは当たり前の結果で悲惨な状態に陥いている人のかえって可愛そうに思い、心からその人を助ける神からの美德である”だと言われました。有名な説教家であったトマスワ-ソンは神様の哀れみについてこう定義しました。

“[恵み]は罪の中で苦しんでいる人々に向う神様の好意だと言えば、[哀れみ]は罪の結果によって惨めな状態の中にいる人たちに向う神様の愛情そのものだ。”

ですから、哀れむ者はわかりやすく言うと倒れている人を踏みつけずに手を出して立ち上がらせる人だと言えます。私たちがサッカー試合をみる時、ある選手が倒れている相手のチームの選手を立ち上がらせる場面をみると“ナイスプレイだ!”といいながら拍手を送るのではありませんか。哀れみとはこのように他人が受けている苦しみをみてその苦しみをともに負い、もしくは取り除くために具体的に助けてあげる事です。

今日の御言葉のなかで“哀れむ”という意味は動詞ではなく形容詞が使われています。つまりこれの意味は、まるで金持ちが一度や二度、貧しい人のためにお金を寄付するように一度や二度の哀れみを施す行為ではなく日常生活

の中でいつも苦しんで悩んでいる人にむかって哀れむ心と姿勢ができている状態を意味します。

聖書の多くの箇所には神様の哀れみが表わされています。神様の哀れみはイエス様が罪の贖いのために十字架にかかられたことにも表れています。普段苦しんでいる人々を顧みるイエス様の生き方や姿によく表わされています。イエスキリストは病んでいる人々を癒し、見えない人々を見えるようにし、聞こえない者たちが聞こえるようにし、死んだ者を生き返らせました。イエス様は遊女（ゆうじょ）たちや収税人たち、アルコール中毒者たちと放蕩した者たちの罪は忌み嫌われましたが、さまよっている彼らの姿を見て心痛み、涙を流しながら彼らを友達とし、赦し、愛されました。

＜3. どうして哀れみ施すべきなのか。：哀れむ者の祝福- 哀れみを受けます＞

愛するクリスチャンプレイズチャーチのみなさん！哀れみは私たちに神様の祝福がかならず伴いますので、哀れみを施さなければなりません。もう一度今日の本文を注意深く読んで見ましょう。

“あわれみ深い者は幸いです。その人たちはあわれみを受けるからです。”

本文で、“その人たちが” だという言葉が強調されています。つまり、その人たちのみが、言い換えると、他の人たちに哀れみを表した人たちのみが哀れみを受ける祝福を頂けるという意味です。だれから哀れみを受けるんですか。隣り人たちから、他の人々からもそうですが、究極的には神様からの哀れみを受け続けることができるということです。

実はこれこそイエス様が教えて下さった主の祈りの内容ではありませんか。

“私たちの負いめをお赦し下さい。私たちも、私たちに負いめのある人々を赦しました。(マタイ 6 : 12)”

自分が隣り人を哀れむことができず、赦せないのに、神様が自分を哀れんで、赦してくださるその感激をどうやって生活上で確実に経験することができるのでしょうか。

他の人を赦せず、他の人を哀れむことができず却って他の人たちの罪を定めたり、批判する事が癖になっている人には今日の御言葉は逆説的にこう変えることもできると思います。

“人の過ちや罪を哀れむことなく、人の罪を定める者は不幸です。その人々も自分の罪によって赦されず、定められるからです。” ヤコブ書 2 : 13 節では“あわれみを示した事のない者に対するさばきは、あわれみのないさばきです。”

第一ペテロの手紙 2 章 10 節にはこう書かれています。

“あなたがたは、以前は神の民ではなかったのに、今は神の民であり、以前はあわれみを受けない者であったのに、今はあわれみを受けた者です。” 愛するみなさん、私たちはすでに、そしていつも神様からの大きな哀れみを受けていることがどれほど大きな祝福なのでしょう。もしその神様の哀れみを受けなければ、人は自分の罪や過ちによる罪責感から解放され霊的に平安のうちに、かんっしやのうちに生きることができないのではないのでしょうか。

イエス様は哀れむ者は“哀れみを受ける”と言われました。わたしたちが弱い者、かわいそうな者に哀れみを施す時この世の人々からは何の補償もなくむしろ人々からあざけられるかも知れませんが、神様はこのような人々の味方になって哀れんでくださると約束しておられます。神様はこれらのすべてを覚え、かならず全部報いてくださいます。イエス様は“あなたがたが、これらの私の兄弟たち、しかももっとも小さい者たちの一人にしたのは、わたしにしたのです。” (マタイ 25:40)と言われました。

＜適用 : 哀れみを実践する生活＞

すると今日私たちはどうすれば哀れみを施す生活、哀れみを実践する生活をするのでしょうか。

1. だれでも哀れみを実践することができます。

哀れみとは他人の不幸と悩みを慰め、苦しみを共に分け合おうと助けようとする心を意味します。

私たちは困っている隣人に対して格別に愛をもって自分を犠牲にし、献身する人々を時々見ます。その人々を

見ると、私たちはたやすく、彼らは時間が余っているからとか、お金が余っているからそんなことをするのだと思う傾向があります。しかし実際にその方々の話を聞いて見ると、全然そうではありません。むしろ忙しい時間を割いて、きびしい家計の中でお金を分けて困っている人たちを助けます。まるで私たちに時間が余って、お金が余って献金する事ではないように彼らも自分たちの一部を分けてやっているのです。私たちイエスを信じている者たちはイエスを信じてはいませんが、自分の人生を困っている隣人のために費やしている人たちに見習って、隣人を哀れむことにもっと熱心で模範にならなければなりません。詩篇 37 篇 26 節では“その人はいつも情け深い人に貸す。その子孫は祝福を得る。”聖書の教えている通り私たちがそれに従って、わずかな物でも分け与え、他人だけではなく自分も潤されるみなさんとなりますように主イエスキリストの御名によって祝福します。

2. 哀れみを受ける事も大切だと思います。人を哀れむ心も大切ですが、哀れみを受けることを知る事も大切です。私たちが生きている間、ほかの人の助けと愛を受けなければならぬほど苦しい状況におかれる時もあります。その時、私たちは哀れみと愛をはずかしがらないで感謝をもって受ける人になるべきだと思います。しかし私たちが生きているこの世は自分ではない他の人にむかって哀れむ人も多くはないし、意外と哀れみをうまく受ける人も多くないと思います。反面、哀れみと愛を当然のように受ける人もいれば、ある人は哀れみと愛を施した人をむしろ嫉妬し、憎む場合もあります。そしてある人は愛と哀れみが必要とされているのにもかかわらず、自分のプライドのため何の問題もないふりをし、仮面をかぶったまま自分をかくして生きている人も多くあります。このような人たちは当然、神様の愛と哀れみさえこぼみ、苦勞しながら生きていきます。これらのことがますますこの世をさびしくさせるのではないかと思います。

事実、私たちは神様の哀れみを受け、その恵みによって生かされているのではありませんか。哀れみと愛を受ける事を知っている人は、神様とほかの人からの哀れみと愛を感謝をもって受け、そしてその哀れみと愛によってもっと努力し、やがて自分だけではなく自分より苦しんでいる人を何倍も助けてあげるほど成長する人です。

哀れみと愛を受けて日々最善をつくして成功することだけでも哀れみを受けることを知っているすばらしい人ですが、私たちはさらに一歩すすまなければなりません。その愛のおいめを報いるために自分も自分より困っている人を助ける人になるなら、それこそ哀れみを受ける事を知っている人としての最善だと思います。

ですから、神様の哀れみと愛を受けて生きている私たちクリスチャンたちは神様に感謝し、神様の愛と哀れみを無駄にしないようにしなければなりません。そして神様の愛と赦しを万分の一でも報う心をもって隣人を哀れんでいきましょう。

人生の歩みにおいて困る時もあれば、万事（ばんじ）が意（い）のままになる時もあります。困った時には神様と隣人の愛と恵みに感謝をもって受け取り、その愛と恵みが無駄にならないように何倍も努力して生きましょう。反対に万事が意のままになる時、私たちがやるべきことは自分が困った時、自分を哀れんで助けてくださった神様と隣人の愛に恩を返し、そのおいめを報いる心で自分より大変な隣人をかえりみ、哀れんであげる事です。まずイエスキリストを信じる私たちがその心をもって生きるならこの世と社会はどれほどあかるくなるのでしょうか。

最後に韓国ソウルのヤンファジンと言う所には韓国に來られ殉教された 145 人の海外の宣教師のお墓が集められています。韓国の教会だけではなく、医療、教育、文化、社会全般的に貢献され最後韓国でなくなられた方々を記念するために国から作られた共同墓地園なのです。そこには大体西洋の宣教師やその家族ばかりですが、有一日本人の方一人が安置されています。その方の名は曾田嘉伊智（そうだがいち 1867-1962）先生です。山口出身の彼は若い頃は夢もなく、日々酔っ払っている日々生活の中、ある寒い冬の夜酔っ払って道に倒れて意識を失い、そのまま凍死になりそうな彼を聖書のサマリア人のように救ってくれたのがある名前も知らない韓国人だったそうです。彼が嘉伊智さんをおんぶし、旅館につれていて看病してくれました。その哀れみの負いめを返したくて彼は 1905 年 6 月に韓国に行きました。そこで、彼はクリスチャンになり、その 2 年後篤実なクリスチャンであった上野たなこさんと出会い結婚してから、韓国で伝道師になりました。以前聖書のサマリア人のようにある韓国人から哀れみを受けた

分を少しでも返そうと思い始めたのが当時まだ貧困と戦争で捨てられる孤児たちが多くいるのを見て、どうしてもがんまんでできませんでした。そして韓国で初めて孤児院を設立したのです。嘉伊智先生は40年間も捨てられた数千の子供たちの献身的な父親になって哀れみを与えてくれました。1962年9月6才で召される時まで永楽孤児院で子供たちが見守っている中で召され、今のヤンファジンのお墓園に安置されることになりました。

彼のお墓には嘉伊知先生についてこう書いてあるようです。“日本人として韓国の子供たちのためすべてを捧げた人、キリストの愛をすべてのお体で表して下さった方”だと。きっと神様も、韓国の人々も曾田嘉伊知先生の哀れむ姿こそ、キリストの愛を表しであると認めて下さっていると信じます。そして韓国の政府も日本人としては始めて文化勲章（くんしょう）を授与（じゅよ）しながら、“韓国孤児のお父さん”だとほめたたえました。素晴らしい証ではありませんか。神に哀れみを受ける者はかならず他の人にも哀れむ者になる！その人生がどれほど祝福であるか曾田嘉伊知先生の生涯を通して私たちはよく学ばされます。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！みなさんは哀れむ者ですか。

私達も神様の哀れみを受ける資格がない者でしたが、神様は私達を哀れんでくださいました。神様はイエスキリストを十字架で死なせるほど私達を愛し、そして私達の罪を赦してくださいました。その哀れみの神様はいまもなお私達が苦しんでいる時イエス様を通して哀れんで、具体的に助けてくださっています。苦しい時なぐさめ、危険な時、私達の盾（たて）になってくださり、病んでいる時わたしたちをおぶって人生を歩んでくださいます。ですからイエスキリストを通して神様の哀れみを受けて生きる者であるなら、私達が哀れみを施す事は当然です。いや、かならず私達が実践すべき項目であります。

哀れみ深い者は幸いですと言われるイエス様の御言葉を心に刻みましょう。そして始まったこの6月の間にも神様の哀れみを表わす祝福の通路としてみんなと、うちの教会となりますように切に祈ります。梅雨入りのこの季節に神様からの御言葉に従うことによりさらなる神様の哀れみを経験するクリスチャンプレイズチャーチの私とみなさんになりますように主イエスキリストの御名によって祝福します。アーメン！

<祈り>

哀れみ深い愛の神様！

哀れみを受ける資格もない私達に十字架の上で命まで与え哀れんでくださり、罪を赦して下さった恵みの心から感謝いたします。

今まであなたの哀れみのゆえに、今私達が守られていることをしばしば忘れてしまい、自分勝てに、自己中心的に生きて来たことをお赦し下さい。

神様からたくさん哀れみを受け、赦された者なのにもかかわらず、その事実を忘れて、自分は義人のように、他の人の過ちや間違いについて口で、心で批判したり、裁いたりしたことをお赦し下さい。しかし、今日の御言葉を通してもう一度哀れみこそ赦しと祝福の通路であることを悟られ感謝します。私達クリスチャンプレイズ教会がさらに哀れみ深い主の教会となりますように願います。

教会の家族の間でも哀れむ者として接し、哀れみ深く分かち合えるように、

教会に通ってない隣り人たちに対しても哀れみを施す我々となりますように助けて下さい。

それによってさらに神の哀れみが豊かに味わえる教会となるように祝福してください。

溢れるほど私達に哀れみを施して下さる主イエスキリストの御名によってお祈りします。アーメン